

三歳児の興味と理解

—紙芝居を通して—

研究第8部 星 美智子

〔共同研究者〕 清水 玲子
(東京成徳短期大学)

〔研究協力者〕 小林千鶴子・釜谷 青子・吉田 正子
(幼児グループ)

I 研究目的

前回の劇遊びに続き、三歳児保育における紙芝居を通して、三歳児の興味と理解の特徴をとらえることを目的とする。同時に、興味を引き出し、理解を深める保育方法についても考察する。特に今回は、同じ紙芝居を、レコードによる語りと保育者による語りの2つの方法によって行ない、三歳児の反応の違いを比較検討する。

II 方法

〔材料〕

1)レコード紙芝居4種類。〈大きな大根〉、〈ジャックと豆の木〉、〈もじゃもじゃベーター〉、〈ヘンゼルとグレーテル〉

2)材料選択の理由

①話の筋がわかりやすい。②ストーリーを中心にしたものと、ストーリーの山はないが、リズムやくり返しを中心にしたものと、2通り選択した。また、③これまで教年間の保育のなかで、子どもたちに喜ばれてきたものから選び出した。

3)あらすじ

〈大きな大根〉

おじいさんが、畑に大根を作る。種を蒔き芽が出、大きくなって、おじいさんは大根を引き抜こうとするが抜けない。おばあさんを読んで一緒に引っ張るが抜けない。子どもの太郎を呼び、犬のポチを呼び、猫のミケを呼び、ねずみのチュウ太を呼んで力をあわせてようやく抜けたが、それはそれは大きな大根であった。

〈ジャックと豆の木〉

ジャック少年が、牛と取りかえた豆から、一晚のうち

に雲をつぎぬけるほどの豆の木が生える。ジャックは豆の木を登って天の国へ行き、そこにいたおばあさんに教えられてオニの城へ忍び込み、昔奪われた金の卵を生むにわとりをとりもどしてくる。母親が喜ぶのを見て、ジャックは再びオニの城へ忍び込み、魔法のたてごとを持ち出す。たてごとが鳴り出してオニが目をさまし、追いかけてくる。豆の木を伝ってひと足早く地上に降りたジャックは、斥で豆の木を切り倒し、オニは空から落ちて死んでしまう。

〈もじゃもじゃベーター〉

ベーターは髪の毛はもじゃもじゃ、つめは伸び放題、お風呂もいやがって入らないという汚ない男の子。とうとう、ベーターのふとんや服、おもちゃなどがベーターをいやがって逃げ出す。あわてて追いかけるベーターを、バケツやブラシが洗ってやると追いかける。ベーターは、通りのくだものやさんをひっくり返し、あひるに笑われ、犬にほえられ、公園の柵にひつかかってしまい、かえるにも笑われる。つかまって身体を洗われ、髪をきちんと刈り、つめも切ったベーターは、みちがえるようにきれいになって、みんなで踊る。

〈ヘンゼルとグレーテル〉

兄のヘンゼルと妹のグレーテルは、父母の留守の間に、いちごパイを全部食べてしまう。帰ってきた母親は2人を叱って、森へいちごをつみに行かせる。森の奥へはいり、道に迷った2人はお菓子の家を見つけて喜ぶが、待っていた魔法使いにつかまってしまう。ヘンゼルは、肥らせて食べようとオリに入れられ、グレーテルはこま使いをさせられる。魔法使いにヘンゼルを食べるためのかまどの支度をいいつけられたグレーテルは、知恵を働かせて魔法使いをかまどの火の中へ押し込み、2人

は助かって家に帰る。父や母は大喜びする。

〔対象〕

都下団地幼児グループの三歳児、のべ108名（入園時月齢3歳1カ月～3歳3カ月）、（週2回、3時間ずつの保育）

〔手続き〕

a 4種類の紙芝居を、レコードの語りで見せる方法と、レコードを使わずに保育者がお話してみせる方法と、2通りの方法で行なう。

b 1回の保育のなかで、レコードによる方法と、保育者の語りによる方法と1回ずつ、違う種類の組みあわせで行なう。子どもが慣れてしまうのを考慮し、続けないうで行なう。（たとえば、午前中に〈大きな大根〉をレコ

ードで行ない、昼食後〈ヘンゼルとグレーテル〉を保育者の語りで行なう、という形をとる）

c 観察は、観察者3名が、2～3名ずつの対象児の反応を記録し、同時にテープに録音する。

〔観察期間〕

1977年11月と1978年2月の2回

III 結 果

観察者3名の記録を、各回ごとに表にまとめ（資料参照）、分析して次の4つの視点で整理した。

1. ストーリーの展開と子どもの興味

物語の展開に対する対象児の反応は、第1表に示す通りであった。

第1表 ストーリーの展開と子どもの反応

紙芝居	場面（数字は絵の番号）	反 応
大きな大根	①～③ おじさんが種をまいてから、大根ができるまで ④～⑥「ヨーイショヨイショ」と大根をひっぱる ⑥～⑧「〇〇ヲツカマエタ」とくり返す ⑧、⑦、⑧ 犬、猫、ねずみの登場 ⑩ 大根がようやくぬけた	○よそみをする、手で何か（スカート、ズボンつり）いじる、他の子とふざけあう ○声をあわせて、すわったまま腕を出し、身体を前後に動かしてひっぱるまね ○いっしょに「ツカマエタ」をくり返して言う ○はしゃぐ、にこにこする、いっしょに「ミケヤーノ」「チュー太ノ」「チューピーノ」などと呼ぶ、「犬ダ」「ネズミ」という ○うれしそうににっこりする、いすからたって「シュッポーン」という「ヌケチャッター」と笑う、じっとみる
ジャックと豆の木	①～② 牛を豆ととりかえてきたことにごっかりしたおかあさんは、豆を外に捨て豆の木が生える ④～⑥ ジャックが天の国でおばあさんと出会ってオニのことを聞く ⑦、⑩ オニが帰ってきて「人間のにおいがする」という ⑧～⑨ ジャックは室のにわとりを抱えて、そうっと逃げる ⑫～⑭ ジャックはまほうのたてごもを持ってそうっと逃げるが音がしてオニが目ざまし、追いかけてくる ⑯～⑰ ジャックが斥で豆の木を切り、オニは落ちて死んでしまう ⑱ ジャックとおかあさんとで喜びあう	○よそみをする、うしろをむく、目をこする、鼻をいじる、となりの子としゃべる、ふざける ○「おばあさん」と「オニ」ということばのとき、ちらっとみるが、あとはよそ見、あくび、ふざけあう ○じっとみる、息をつめる、身を縮める、緊張してみている、不安そうな顔をする ○よこ目でみる、目を手でかくしてそっとみる、「コワイ」という ○たてごもが鳴ったとき、下をむいてじっとする、「アッアッ」と不安そうに身を縮める、すわりなおしてみている、あせったように足をばたばたさせる ○緊張して集中する、じっと身体を固くする、いっしょに木を切るまねをする、不安そう ○ほっとした表情、一段落したというようにすわり直す、「よかったね」に「ウン」とうなずく、にこっとする

<p>もじゃもじゃ ベーター</p>	<p>① 髪はもじゃもじゃ、ベーターという子がいましたよ ② 「とこやさんにいきなさい」「やーだよ」「手を洗っていらっしやい」「やーだよ」「つめを切りましょう」「やーだよ」 ⑥ バケツのおじさんが、ベーターをガッチャンガッチャンと追いかける ⑦, ⑧ あひる, 犬, かえるが登場 ⑩ ベーターをつるつるごしごしとみがく ⑪ ベーターの頭をはさみでチョッキン ⑫ きれいになったベーターがみんなと踊る(ドンドコドンドコ……)</p>	<p>○「モジャモジャ」とくり返す, 「ベーター」という, 「ハイジニモイルヨ」という ○集中してみている, ニヤッと笑う ○身をのりだす, 「ガッシャン」という, 声をたてて笑う, 足をばだばたうごかす ○「ワンワン」という, よくみる ○手をごしごしともむ ○「チョッキン, チョッキン」という, にっこり笑う ○足を調子をとってドンドンふみならす, のんびりとながめる</p>
<p>ヘンゼルと グレーテル</p>	<p>② ヘンゼルとグレーテルがいちごパイを食べる ③ 2人で踊る ④ いちごをさがして2人は森の奥へはいつていく ⑤ 魔法使いの登場 ⑥~⑦ 魔法使いが2人をつかまえる ⑧, ⑨ ヘンゼルの太りぐあいを, 牛の骨でごまかす ⑩ グレーテルが魔法使いをかまどの火の中へ押し入れる ⑪ 2人が無事に帰ったので父母も喜びみんなで踊る</p>	<p>○じっとみる, 指をくわえる, にこにこ笑う, 手で口をいじる ○音楽にあわせて手をたたき, 足ぶみをする, にこにこしていっしょにうたう ○足をうごかす, 緊張する, じっとみる, 不安そうに眉をよせる ○「マホウツカイ」, 不安そうな顔つき, 緊張する ○じっとみている, 緊張する, 「ア, ア」という ○よそみをする, くつした, スボンつりなどをいじる, 他の子とふざけあう ○じっとみる, 不安そうにみる ○いっしょに手をうつ, 足ぶみをする</p>

動物や、オニ、魔法使いなどの登場人物や食べ物に興味を示すと同時に、ストーリーの山場とみられる部分では、子どもたちは緊張して集中した。また、ことばや動作、音楽の調子のよくり返しが好まれた。しかし、ストーリーを展開していく上で必要な因果関係の説明の部分第1表<大きな大根>の①~③、<ジャックと豆の木>の①~③、④~⑥<ヘンゼルとグレーテル>の⑧~⑩では、よそみをしたり、ふざけあったりして集中しない傾向がみられた。

2. メディアによる違い(レコードの語りと保育者による語りとの違い)

メディアによる反応の違いを、a. 音楽効果、b. 物語のふくらませ方の効果という2点から整理すると、第

2表、第3表の通りであった。恐怖をさそう場面では、レコードの音楽が、非常に効果的であった。リズムカルな雰囲気についても、レコードは効果があった。また、ストーリーの展開上必要な説明については、保育者が子どもに問いかけ、子どもの反応を見ながら話していく方法が、子どもたちの積極的な反応をひきだした。子どもたちの参加については、保育者が、子どもたちが楽しめるように工夫して働きかけることで、紙芝居にない参加場面が数多く作られた。特に、第3表<大きな大根><ヘンゼルとグレーテル>にみられるように食べる場面の挿入は、子どもにたいへん喜ばれた。

ただ、<ヘンゼルとグレーテル>でのお菓子の家の場面ではお菓子を食べることに発展させた結果、高まって

第2表 音楽効果

紙芝居	場面	反応
大きな大根	④～⑨ 人物登場の音楽 ⑩～⑪ だいこんをひっぱる	○レコードでは軽快な音楽に身体をゆすって楽しそうな様子。(保育者の語りでは登場の音楽はない) ○レコードでも保育者でも、どちらもリズム感があって、子どもたちはよくリズムにのった
ジャックと豆の木	⑫ ジャックが豆の木を登る ⑬～⑭ ドッシンドッシン、オニが焔ってきて「人間のにおいがする」という ⑮～⑯ そうとにわとりを抱えてげだす ⑰ たてごとが急に鳴り出し、オニが目をさます ⑱～⑳ オニがジャックを追いかけてくる	○レコードでは調子のよい音楽がはいり、子どもたちが集中しやすい ○こわい大きな音に、子どもたちは緊張する 保育者の語りでは「においがする」ということばの方に子どもたちが集中する ○レコードでは音楽がはいり、子どもたちが集中しやすい ○レコードでも、保育者の語りでも、急に鳴り出すところでは子どもたちは緊張している ○レコードでは、追われて急ぐ音楽に子どもたちは身動きをとめて緊張する
もじゃもじゃベーター	① ベーターがなんにでも「やーだよ」という ②～⑦ ベーター逃げる ⑧ きれいになったベーターが踊る	○レコードでも、保育者の語りでも調子がよく、子どもたちが喜ぶ ○レコードでは、追いかけてこの音楽がリズムをとって、子どもたちがリズムにのって行く ○レコードでも保育者でも、子どもたちは喜ぶ
ヘンゼルとグレーテル	⑨, ⑩ 踊る ⑪ 森の奥へ2人がはいついていく ⑫～⑬にかけて、2人が魔法使につかまる	○レコードも保育者のうたも、どちらでも子どもたちはいっしょにうたい、踊る ○レコードでは不気味な音楽が流れ、子どもたちは、何か恐ろしいことが起こるのではと緊張したようす 保育者の語りでは、ここではまだ子どもたちは緊張していない ○レコードでは、その瞬間シンバルが大きくひとつ鳴って、子どもたちの緊張は極に達する 保育者の語りでは、子どもたちの緊張はレコードほど強くない

第3表 物語のふくらませ方の効果

紙芝居	場面	ふくらませ方と反応
大きな大根	①～② だいこんの種をまいてから育つまで ③～④ だいこんをひっぱる ⑤～⑩ ぬけるときの	○保「これなあに？」子「アメノ」「タイヨウ」 保「ここで何がでたかな？」子「メ」 保育者の語りでは、子どもに質問をしながら説明をしている ○保育者はひっぱるまねをし、子どもたちがそれをまねて動作をする レコードでも、レコードのかけ声にあわせて子どもたちはひっぱる動作をする ○保「みんなひっぱるの手伝ってくれる？」と子どもたちに呼びかけ、子どもたちの参加をつよめた

	⑩ おしまいの部分	<ul style="list-style-type: none"> 保「この大根、何にして食べようか？」 子「オデン」「オミソシル」「カレーライス」 保「じゃ、こうしてきざんで」ときざむまねをする 「おなべで煮て、いただきます」と食べるまね、子どもたちは、きざんで食べる動作を喜んでする
ジャックと 豆の木	<ul style="list-style-type: none"> ① 豆の木が生える ④～⑤ 天の国でおばあさんがオニの城を教える ⑧ オニがねむる ⑩ ジャックが斥で豆の木を切る 	<ul style="list-style-type: none"> 保「なんの木？」子「マメノ木」 保「お城、みえた？」うなづく子どももあり、あまり反応のない子もいる 保「お城に行く？ こわいから帰る？」 子「イクノ」と叫ぶ 保「オニが眠るから、静かに待ちましよう。しいーっ」と指を口にあてる 子「ジーッ」と指をたてる、静かになる 保育者が、「えいっえいっ」と切るまねをすると、子どもたちも同じ動作をする。レコードでは、子どもたちは身体を固くしてじっとみつめている
もじゃもじゃ ペーター	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ あひる、犬のでてくる場面 ⑩ おわったあと 	<ul style="list-style-type: none"> 保「だれでしょう？」子「アヒル」 保「みんなはきれいかな？ 手のきたない人は？」 子「イナイ」「パッチクナイ」 保「つめのびてるかな？」子「手を見て」「ノビテナイ」「ウチのパパ、ノビテタ」「イナイ」
ヘンゼルと グレーテル	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 2人は菓子の家をみつける ⑩ 無事に家に帰り、みんな喜んで踊る 	<ul style="list-style-type: none"> 保「キャンデー知ってる？」子 うなづく 保「これはなあに？」子「アイスクリーム」「クッキー」 保「おいしそうね、なめてみようか」と指でクリームをとってなめるまねをする。子どもたちも、いっしょになめる動作をする。子「アマーイ」「アマクナイ」 レコードでは、お菓子の名前がでてきても不安そうなようすでみている 保「おみやげは何だったかな？」 子「オカン」「イチゴバイノ」

第4表 発達による反応の変化

対象児	第1回の反応	第2回の反応
M. T.	よそみ、たちあがってしまう。いっしょに声をかけたり、動作したりしない。関係ないことを話す。恐ろしい場面でもあまり緊張しない	よくみている、「ヨイショ」「〇〇ラツカマエタ」「ボーン」など、いっしょに大声を出す「豆ダ、トリカエタンダ」「ソレカラサ、ホーキノッテ来ルンダヨ」とストーリーを理解する、緊張する
T. Y.	身うごき多い、恐ろしい場面で身を縮める	前の場面を見ながら「ソウスルトネ、オニガアノ上ニイル、ドンドン」と先きをいう「オイカケテクルヨ」とあせってみなに知らせる
H. J.	<p><もじゃもじゃペーター>手いたずらをしながらちらっと見る程度</p> <p><ヘンゼルとグレーテル>集中しない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ペーターが追いかけてられていく部分、夢中になって見ている、いっしょに踊る、保育者の問いかけに応じている 静かにじっとみている

T. H.	<もじゃもじゃベーター>集中している <大きな大根>リズムをいっしょに楽しむ <ジャックと豆の木> <ヘンゼルとグレーテル> } 集中, 緊張	◦みているが, あまり集中していない ◦ますます緊張し, 夢中でみている
I. T.	『オニ』とか『たまご』などに部分的に集中し, あとはよそみ, 身動き	◦全体を通してよくみる 「タベルトネー, オカアサンニオコラレル」など, 先きをいう

きた不安と緊張が解けてしまい, こわい魔法使いのことを忘れて食べる方に集中してしまっていた。

3. 対象児の発達による違い

第1回と第2回では3カ月の違いがある。その間に対象児が発達したことで変化したとみられる反応を, 第4表に示した。

第1回では, 全体を通して集中することのなかった子どもが, 第2回では集中してきている。(M. T., H. J., I. T. など) また, 回数をかさねたことにもよるであろうが, 第2回では, ストーリーの先の見通しがついてきて期待する傾向がでてきている。しかし, <もじゃもじゃベーター>では第1回でよく集中してみている子どもが, 第2回で集中度が落ちることもみられる。

(T. H.)

4. 個人差による反応の違い

物語の種類やメディアの違いによらず, 反応には個人差もみられた。ほとんどの子どもは, 集中すると反応が多くなるが, 常に非常に少ない子どもがいる。じっと見ているが, 表情の変化がほとんどない子(M. E.), また, バックに流れるレコードの音楽や, リズムのあることばに特によく反応する子ども(T. H.)や, 保育者の語りにはたいへんよく反応するが, レコードではあまり反応が見られない子ども(K. T.)がいた。

IV 考 察

1. メディアの違い

(1) ストーリーの山へむかって, 不安と期待を高め, 恐怖感を持たせる上で, レコードの音楽は効果的である。子どもたちは, 画面に恐いもの(オニや魔法使い)が出てこないうちに緊張しはじめ, ストーリーの中へひきこまれていく。子どもの興味を引き出す上で, プラスの役割を果たしていると思われる。

(2) リズム感を出す上でも, レコードの音楽は効果をあげている。リズムカルなかけ声や調子のよいことばについては, 保育者の語りにも, レコードと同じようにリズムの工夫がなされ, 子どもたちの反応に違いはみられなかった。リズムは保育者の語り方の工夫で, 子どもの興味を増すことのできる側面の一つであろう。しかし,

新しく人が登場するときの音楽や, 追いかけてこの伴奏などは, 保育者の語りだけでは補えないリズム感を持ち, レコードの効果的役割を示している。

(3) 一般に, ストーリーの展開に必要な説明部分は, 集中がおちる。しかし, 保育者の語りでは, 子どもたちに問いかけながら, 子どもの反応にあわせて説明を補う努力をして, 子どもたちの理解を深めるための役割を果たしている。レコードでも, 幼児の理解の程度, 特徴を考慮しているであろうが, 目の前で紙芝居を観る子どもたちの反応にあわせることは性質上不可能である。この点では, 保育者が, 子どもたちの反応をみながら語っていくことは効果的であり, 重要である。

(4) 子どもたちの場面参加については, 保育者の工夫で, レコードではできない参加場面が数多く作られた。これも, 保育者と子どもたちが一体となって, その場で作っていく共同作業であり, レコードにはない要素であろう。

(5) 子どもたちの興味をとらえて参加場面を作ることはいよいことであるが, ストーリーの展開をこわしてしまう危険性もある。恐い場面へ少しずつ緊張が高まってきているとき子どもの好きなお菓子だからと, お菓자에注目させ, イメージをふくらませてしまうことは, ストーリーへひきこまれていた子どもたちを, 日常的な興味へひきもどしてしまい, 物語を理解していく上でマイナスではないだろうか。子どもを集中させること自体が目的ではない。物語を味わう上で効果があるように留意する必要があるだろう。

(6) 子どもたちの反応にも個人差があり, 保育者の語りにはよく反応するが, レコードにはあまり反応しない子どもがいる。日常の保育においても, 友だちと遊ぶより, 保育者にくっついて話していたがる傾向を持つ子どもであるが, こうした子どもには, 保育者の語りかけの魅力は, 特別なのであろうか。また, リズミカルな音楽が鳴ると, 楽しそうに身体をゆする子どもにとっては, そうした機会の多いレコードの方が好まれる傾向にある。

2. 物語の展開

(1) 前回の劇遊びでもみられたように, ストーリー全

星他：三歳児の興味と理解

体の流れに対する興味というよりも、場面ごとの部分的な事物（食べ物、動物、オニなど）や事件（追いかける、たべられてしまうなど）への興味が中心になっている。しかし、第2回には、先きへの見通しをある程度持ち、期待してみるように変化してきており、この時期の理解力の発達をめざましさを感ぜさせられる。

(2) ことばやかけ声のくり返しについては子どもたちの興味が集中し、これらの要素が三歳児にとって大きいことを知らされた。しかし、第2回目では、第1回目から全体に集中していた子どもが、ストーリー性の弱い物語のくり返しやことばのおもしろさに反応しなくなった例もみられ、ストーリーを楽しむ理解の力ができると、くり返しなどへの興味が逆に減ることが考えられる。

(3) 展開上必要な因果関係の説明などについては、あまり興味を示さなかった。これはこの時期の子どもたちが、ストーリー全体の因果関係を理解する力をまだ持たず、したがって関心ももたないのであろう。

V 結 び

我々の観察した三歳児においては、前回の劇遊びでもみられたように、興味の持ち方は直接的であり、物語全体を理解する力は持たない。しかし、同じ紙芝居でも、

ストーリーにひき込む音楽やリズムを工夫し、さらに反応をとらえながら説明を加えたり場面参加を促すことで、充分物語全体を楽しむことができるのではないだろうか。メディアの違いは、どちらかの優位性を決定するものではなく、どのような要素が効果的であるかを検討するのに役立った。紙芝居に限らず、絵本、テレビ、お話など、子どもに与える際に以上の分析を生かしていきたい。

参考文献

1. 星美智子他：三歳児の興味と理解に関する研究——劇あそびを通して——，日本総合愛育研究所紀要第12集 1976
2. 田代康子：絵本受容過程に関する研究，日本教育心理学会19回総会，1977
3. 高木和子：読み，児童心理学の進歩，1977
4. レコード紙芝居，「大きな大根」，「ジャックと豆の木」，「もじゃもじゃペーター」，「ヘンゼルとグレーテル」，童心社

〔記録例〕

ジャックと豆の木 11月25日（レコード）12：45～55

	ふじもと ゆうこ	いぬい たつお	たかだ ひろみ	もり えみこ	こたぎ ちさと	はせがわ じゅんいち
① 豆を外に捨て	○じっとみる M足ブラブラ	Vあちこちよそみ	○	○じっとみている	○	○VM足の先ブラブラ Tをみる
② 豆の木が生える	Vうしろむいてニヤッ	○	M指しゃぶりながら	△左右をちょっとみる ○じっとみている	VTをみてニコニコよそみ	○M2歳の子じっとみる M足ブラブラ
③ ジャックがのぼれば豆の木も伸びる	○	V Tをみてニヤッ ○いちおうみている	V他の子のうごきに気をとられている	○	○	○
④ 天の国，おばあさんあそこをごらん	↓ちらっと横みる M足ブラブラ	○	○	Mみながら耳をいじる	○音楽，集中	○赤いマントち Vちらっとみる
⑤ あの城にはオニが	○	○集中	○	○	M目をこすりながら	○キョロキョロうしろむく T2歳の子うしろむく
⑥ どんどん戸をたたいた女の人がかくしてく	↓たちあがり，スカートいじる，すわる，Mたちあがる	○	Vちらっとよそみ	○	↓となりの子をVみている	Mネクタイいじっている 止め皮「トレ×チャック」